

平成28年1月

谷尾俊輔 学位論文審査要旨

主査 梅北善久
副主査 林一彦
同 領家 和男

主論文

Low prevalence of Merkel cell polyomavirus with low viral loads in oral and maxillofacial tumours or tumour-like lesions from immunocompetent patients: Absence of Merkel cell polyomavirus-associated neoplasms

(免疫正常患者の口腔顎顔面の腫瘍または腫瘍様疾患における少量のメルケル細胞ポリオマウイルスの低罹患率：メルケル細胞ポリオマウイルス関連腫瘍の欠如)

(著者：谷尾俊輔、松下倫子、桑本聡史、堀江靖、小谷勇、村上一郎、領家 和男、林一彦)

平成27年 Molecular and Clinical Oncology 3巻 1301頁～1306頁

参考論文

1. Intravascular papillary endothelial hyperplasia associated with hemangioma of the mandible: A rare case report

(下顎骨血管腫に関連した血管内乳頭状内皮過形成：まれな症例報告)

(著者：谷尾俊輔、岡本充浩、Abir Majbaudhin、園田真之、小谷勇、土井理恵子、領家 和男)

平成28年 Journal of Oral and Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology
28巻 55頁～60頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は385症例（381例：免疫正常患者由来、4例：免疫不全患者由来）の口腔顎顔面領域の腫瘍、腫瘍様疾患ホルマリン固定標本を用いて、MCPyVの罹患率、新たなMCPyV関連腫瘍・腫瘍様疾患の有無を検討したものである。その結果、免疫正常患者においては381症例中25例（6.6%）においてMCPyVが検出され、免疫不全患者においては4症例中1例（25%）においてMCPyVが検出された。口腔顎顔面腫瘍・腫瘍様疾患においてMCPyVは少量で低罹患率の結果となり、口腔顎顔面領域においてMCPyV関連腫瘍・腫瘍様疾患は存在しないことが示唆されたが、本論文の内容は、顎骨腫瘍または嚢胞疾患でのMCPyVの罹患率を検討した最初の報告であり、明らかに学術水準を高めたものと認める。